資料2-5

（様式2）

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度：令和7年度】

※1～5：所管課記入、6：指定管理者記入、7～8：指定管理者、所管課及び指定管理者評価委員会記入

所管課	商工観光課
指定管理者	株式会社かまいしDMC

1　施設名等

施設名	根浜海岸観光施設
住所	釜石市鵜住居町第21地割23番地1外
電話番号	0193-27-5455
ホームページ	https://nebama-seaside.jp/

2　施設の概要

設置年月	令和元年7月1日	根拠条例等	根浜海岸観光施設条例
設置目的	豊かな自然と文化を活かした観光振興を推進し、地域の活性化を目指すとともに、市民及び観光客にレクリエーション活動及び憩いの場を提供するため.		
施設内容	①レストハウス （1）多目的ホール　（3）畳スペース　（2）キッチン ②多目的広場 ③オートキャンプ場 ④駐車場 ⑤フリーサイトキャンプ場		
利用料金	①レストハウス （1）多目的ホール：全面1時間当たり　営利…600円　　非営利…300円 半面1時間当たり　営利…300円　　非営利…150円 （2）畳スペース：1時間当たり　営利…300円　　非営利…150円 （3）キッチン：1時間あたり　営利…600円　　非営利…300円 （4）温水シャワー室：15分　200円 （5）洗濯乾燥機：1回　500円 ②多目的広場：全面3時間当たり　営利…30,000円　　非営利…10,000円 ③オートキャンプ場 （1）オートキャンプサイト（宿泊）　※宿泊は午後1時から最終日の午前10時まで 1区画（中型車）　6,000円 1区画　　3,000円 電源を使用する場合　500円 （2）オートキャンプサイト（日帰り）　※午前10時から午後5時まで 1区画（中型車）　4,000円 1区画　　2,000円 電源を使用する場合　500円 ④駐車場：1時間当たり　営利…20円（1㎡当たり）　　非営利…無料 ⑤フリーサイトキャンプ場 （1）宿泊：一張　営利…3,000円　　非営利…1,500円　　ハイカー割…700円 （2）日帰り：一張　営利…1,600円　　非営利…800円 （3）入場料：中学生以上…500円　　小学生以下…250円		
営業日等	閉鎖期間　12月27日から翌年1月5日まで		
営業時間	①レストハウス　　夏季（4月～11月）日曜～金曜日、冬季（12～3月）毎日：午前9時から午後5時まで 夏季土曜日・祝前日：午前9時から午後7時まで ②多目的広場　　午前9時から午後5時まで ③オートキャンプ場　午前0時から翌日午前0時まで ④駐車場　　午前0時から翌日午前0時まで ⑤フリーサイトキャンプ場　午前0時から翌日午前0時まで		

3　指定管理者

指定管理者名	株式会社かまいしDMC
選定方法	公募(応募者数：1　)　・　非公募(随意指定)
指定期間	令和7年4月1日から令和12年3月31日まで

4　指定管理料(決算ベース)

令和6年度(A)	令和7年度(B)	差　(B)－(A)
18,000　千円	17,000　千円	−1,000　千円

5 指定管理者が行う業務

①観光施設の利用の許可に関する業務、②観光施設の施設及び設備の維持管理に関する業務、③根浜地区のにぎわいの創出に関する業務

6 利用実績等

(1) 利用実績 （単位：人、件、%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度 (A)	1,825	2,126	1,223	1,571	3,637	971	1,610	1,203	371	421	222	809	15,989
令和7年度(B)	1,521	1,405	1,099	1,860	3,309	1,063	915	1,160	213	414	327	1,059	14,345
増減数 (B) − (A)	−304	−721	−124	289	−328	92	−695	−43	−158	−7	105	250	−1,644
主な増減要因等	企業研修やみちのく潮風トレイルイベントの開催による施設利用を図ったものの、昨年に引き続き、最も需要が大きいGWやお盆において、雨天によるキャンセルや、7月には津波警報（カムチャッカ沖地震）、秋からは東北地域での熊の出没により、全体の施設利用者は減少した。 また、市内では熊の目撃情報が増加した11月、12月では、安全面の観点から、テントでの宿泊利用の制限を行った。 この一方で、インバウンド向け情報発信や、サービス向上を図ったことから、インバウンド利用者は大きく増え、令和7年度は、123名のインバウンド利用があった。												

(2) 利用料金収入 （単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度 (A)	512	831	437	660	1,295	592	565	532	143	126	128	226	6,047
令和7年度(B)	329	786	380	941	1,732	614	400	299	35	129	143	207	5,995
増減数 (B) − (A)	−183	−45	−57	281	437	22	−165	−233	−108	3	15	−19	−52
主な増減要因等	利用数は減少したものの、GWや夏季の雨天によるキャンセルを除き、繁忙期では満室利用が多く、全体の利用料金収入の減少幅は小さかった。しかしながら、熊の出没による風評被害や11月～12月のテント宿泊制限により、当該期間の収入が大きく減少した。 この一方で、前年度からの取組みを継続し、主に首都圏企業を対象とした企業研修による平日利用の促進や、体験プログラムを活用した団体需要の誘致を展開した。												

(3) 利用料金の見直し状況(対前年度比)

見直しの有無	無
(有の場合)見直し内容	

(4) 営業日・時間の見直し状況(対前年度比)

総営業日数	令和6年度 ：	357	日	※年末年始12/27～1/5まで10日間休み ※冬季キャンプ場は祝平日や曜日に関わらずオープンした（土日祝日とそれらの前日の平日のみオープンとした ※令和7年11月～12月では、テント宿泊は制限したものの、施設は開館した。
	令和7年度 ：	355	日	
総営業時間	令和6年度 ：	3,344	時間	
	令和7年度 ：	3,328	時間	
見直しの有無	無し			
(有の場合)見直し内容				

(5) サービス向上のため実施した内容

■インバウンド受入れ体制の強化と地域資源イベントの展開
訪日外国人に人気がある「みちのく潮風トレイル」のハイカーへの対応を強化した。専門家のアドバイスのもと、多言語（英・日）対応のウェブサイトやInstagramによる情報発信を充実させるほか、インバウンド対応人材を増やし、細やかなサービス提供を図った。

■「GREEN KEY」を活用した環境経営と顧客層の定着
全国初のキャンプ場での認証取得となった国際認証「GREEN KEY」の運用を継続することで、環境意識の高い客層の確実な獲得とロイヤルティ向上を実現した。

■ユニバーサル・インクルーシブ事業の継続と「ユニバーサルビーチ」「ユニバーサル海旅」の挑戦
障がい者支援を行う市民活動団体等との連携を深め、前年度に天候不良で中止となった「ユニバーサルビーチ」を開催した（当社が事務局）。また、岩手県との海業事業では、「ユニバーサル海旅」を開催し、車いすやバギーを漁業体験の漁船に乗船いただくことができた。

(6) 利用者の主な声とその対応状況

【利用者の主な声（好意的な評価）】
前年度に引き続き、「施設内が清潔で非常に心地よく利用できる」「スタッフの接客が丁寧かつ親切で安心感がある」といった高い評価を多くいただいた。また、「赤ちゃんの駅」への登録やキッズスペースの充実など、乳幼児連れのファミリー層が安心して利用できる環境整備についても、多くの好意的な意見が寄せられた。

【課題に対する改善策と対応実績】
■炊事場における給湯設備（お湯）の導入
「炊事場でお湯を使用したい」という利用者のニーズに応えるため、環境負荷に配慮した太陽熱温水器システムを導入し、令和7年4月からの運用をスタートした。

7 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)　※項目は施設の状況に応じて加除修正してください。

評価項目	指定管理者	評価	所管課	評価	指定管理者評価委員会最終評価
施設の目標に沿った管理運営	GW等での雨天によるキャンセルにより、年間利用者数は減少したものの、インバウンド対応を強化することで、インバウンド利用者を大きく増やすことができた。 また、国際認証「GREEN KEY」を軸とした持続可能な観光への取組みにより、良質なお客様の確実な獲得と定着を進めることができた。多様なニーズに対応するコンテンツ拡充と安全管理を徹底し、今年度も大きなトラブルなく良好な管理運営を維持した。	B	年間利用者数は14,345人で前年度比1,644人減となったが、GW・お盆の雨天、津波警報、熊出没など外的要因の影響が大きい。こうした中、多言語での情報発信やインバウンド受入体制の強化、国際認証「GREEN KEY」の継続運用、安全対策を着実に実施しており、施設の設置目的に沿った適切な管理運営が行われている。	B	B
平等な利用の確保	インターネットおよび電話での予約受付を併用し、先着順による公平な利用機会を確保した。また、問い合わせ順に応じたキャンセル待ち制度を継続し、公正な案内に努めた。 夏季や大型連休等の繁忙期に生じる温水シャワー等の混雑に対しては、順番に案内する体制を維持し、平等な利用を徹底した。 車椅子利用者等への対応として簡易機材の設置検証を行うなど、障がいの有無にかかわらず誰もが公平に利用できる環境づくりを進めた。	A	インターネット及び電話による先着順の予約受付、キャンセル待ちへの対応など、公平な利用機会が確保されている。また、ユニバーサルビーチの取組などを通じ、障がいの有無や年齢にかかわらず利用しやすい環境づくりが進められている。	A	A
利用者サービス向上の取組み	2022年1月より導入しているインターネット予約システムを継続運用し、スムーズな予約および受付環境を提供した。 また、前年度に引き続き高品質かつ安定した芝生環境を維持・提供したほか、炊事場へ太陽熱温水器システムを導入し、利用者の利便性向上と環境配慮を両立した。	A	予約システムの継続運用に加え、施設の清潔保持、キッズスペースの充実、太陽熱温水器の導入など、利用者の声を踏まえた改善が図られている。利用者からも清潔さやスタッフ対応について好意的な評価が多く、利便性向上と環境配慮を両立されている。	A	A
自主事業の実施	障がい者支援団体等と連携し、障がいの有無に関わらず楽しめるインクルーシブなイベントの開催やユニバーサルビーチイベントを開催した。 地域資源の循環を工夫しつつ、年5回以上の親子向けイベントを継続開催し、ファミリー層のリピート率を高めた。 また、みちのく潮風トレイルイベントや首都圏企業向けの企業研修での利用を図った。 このほか、前年度に引き続き、SUPやシーカヤック、漁業体験などのプログラムを常時提供し、個人客だけでなく、教育旅行やインバウンドの誘客を図った。	A	親子向けイベント、ユニバーサルビーチ、ユニバーサル海旅、みちのく潮風トレイル関連事業、企業研修、漁業体験などを幅広く実施し、閑散期や平日の利用促進にも取り組んでいる。地域団体や事業者と連携し、施設の特色を生かしたにぎわい創出と新たな利用者層の開拓につなげている。	A	A
職員・管理体制	毎月「施設全体会議」を定期開催し、協働する地域団体や関係諸機関と密な連携・情報共有を図りながら円滑な管理運営を行った。 避難・防火訓練や普通救命講習の実施に加え、「GREEN KEY」認証基準に沿った環境教育や、インバウンド・バリアフリー対応（ユニバーサルビーチ等の安全管理）に関するスタッフ教育を推進し、安全管理体制と接客スキルの向上を図った。	A	地域団体との定期的な情報共有に加え、避難・防火訓練、普通救命講習、外国人接客及びトレイルに関する研修等を実施している。津波警報発令時の避難誘導や体調不良者への迅速な対応、熊対策など、研修成果を実際の安全管理に生かしており、適切かつ実効性の高い管理体制が構築されている。	A	A
収支状況	11月～12月の熊出没によるテント宿泊制限により、収入は減少した。 また、物価およびエネルギーコストの高騰により、消耗品費や委託費があがり、また、施設オープンから一定の期間が経過したことから、草刈り機をはじめ備品修繕費が多く発生した。以上から、経費が増額となった。 今後も平日利用やインバウンド需要の確実な取り込みを進め、収益基盤の強化を図っていく。	B	利用料金収入は前年度比52千円減額であったが、自主財源の確保により収支を維持している。一方、光熱水費、修繕費が計画を上回っており、今後も経費管理と安定的な利用収入の確保が必要である。	B	B

今年度(令和7年度)の取組み	令和7年度は、これまでの個人客だけでなく、インバウンドや、障がいを持った方やその家族が安心安全に過ごせる施設を目指した取組みに重点を置いた。 また、根浜キャンプ場を中心に、地域団体との連携を深め、体験プログラムの充実を通じて根浜エリアの魅力向上と経済効果創出につなぐ取組みを図るほか、釜石市が推進する「サステナブルツーリズム」の拠点として、国際認証の運用や環境配慮型設備の活用を進め、施設の付加価値向上を図った。	B	インバウンド受入体制の強化、ユニバーサル・インクルーシブ事業、環境認証の継続運用、地域資源を活用した体験プログラムを実施している。天候や自然災害、熊出没の影響を受けながらも、安全確保とサービス向上を両立し、根浜地区のにぎわい創出及び持続可能な観光の推進に取り組んでいる。	B	B
総合評価	令和7年度は、これまでの個人客だけでなく、インバウンドや、障がいを持った方やその家族が安心安全に過ごせる施設を目指した取組みに重点を置いた。 特に、専門家と連携したWeb・SNSの多言語化やモニタリングを継続し、釜石市全体の課題であるインバウンド対応を強力に牽引した。 ユニバーサルプロジェクトやインバウンド推進により、「誰もが安心安全な自然とつながる、学びのキャンプ施設」として幅広い層へ認知拡大を図り、高い顧客満足度を得ている。	A	雨天、津波警報及び熊出没等により利用者数は減少したものの、利用料金収入の減少幅は小さく、企業研修や自主事業による利用促進が図られた。特に、多言語情報発信によるインバウンド利用の拡大、ユニバーサル事業、環境認証の継続、安全管理が適切に行われている。収支管理や芝生の維持管理等に課題はあるが、総合的に優れた管理運営が行われている。	A	A

〈評価分類〉 A：仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B：おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適切な管理運営が行われている。
C：仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D：仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

8 効果と課題

項 目	指定管理者	所 管 課	指定管理者評価委員会
制度の効果	協働する地域団体と連携し、定期的な避難・防火訓練や講習を重ねることで、万が一の際にも迅速かつ確実に対応できる防災・安全管理体制を維持・確立した。 レストハウスやキャンプ場のバリアフリー化など、ユニバーサルな施設として、障がいの有無や年齢を問わず多様な利用者が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。	指定管理者の専門性と地域団体との連携により、施設の適切な維持管理に加え、企業研修、体験プログラム、環境学習、ユニバーサル事業が展開され、根浜地区のにぎわい創出と交流人口の拡大につながっている。また、多言語での情報発信や外国人対応の充実により、インバウンド利用者が増加したほか、避難訓練や救命講習等を通じて安全管理体制も強化されている。	・地域との連携効果(これまでの協力体制) ・施設の管理が大変な中でも、レクリエーション活動や憩いの場の提供を効果的に行うことができている。 ・指定管理者の創意工夫により、インバウンド等新たな誘客、ユニバーサルビーチなど新たな価値創出につながっている。
施設の管理運営の課題	■芝生管理維持コスト ラグビーでも利用できる芝生としての品質維持には、多くの費用がかかっており、広場の活用方針や維持管理手法について、引き続き市と協議を進める必要がある。 ■物価高騰に連動した利用料の上限引き上げ 施設運営に係る委託費や消耗品費といった費用が値上がっているため、収入面も物価高騰に連動し、安定的な利用収入を図るため、利用料や備品貸出の料金の改訂について、引き続き市と協議していきたい。 ■バリアフリー設備のハード面における課題 室内温水シャワーのバリアフリー化など課題が残り、誰もが快適に利用できる環境整備に向け、市と連携した計画的な改善していきたい。	多目的広場については、ラグビー利用が多いため、活用方針及び費用負担について整理が必要である。また、物価・エネルギー価格の上昇や設備の経年化により、光熱水費、委託料及び修繕費が増加していることから、維持管理の効率化による経費削減を図りつつ、安定的な利用収入を目的とした料金の見直しや、計画的な修繕を進める必要がある。加えて、車椅子利用者や障がい者の利用を踏まえ、誰もが利用しやすい施設となるよう、バリアフリー設備の計画的な整備が必要である。	・現状での多目的利用のターゲットの見直し(今のまま、使用を望むターゲットへのアプローチ) ・広大な自然の中での取り組みを今後もがんばって欲しいです。 ・改善に向けての動きは見られているが、多目的広場の管理等については、継続して協議、改善に取り組む必要がある。 ・芝生の管理、多目的なら管理のハードルを下げる。ラグビー(協議利用)ならスタジアム運営の範囲にするなど、協議検討を続けていただければと思います。